

8 段落や文の順序を並べ換えて、文章の論理展開を考えましょう

挿絵の順序を考える

「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」に関する学習課題は、従来、「場面ごとに見出しを考える」「あらすじをまとめる」といったものが多かったのですが、「ニャーゴ」（東京書籍・2年上）においては、次に示すように、「挿絵の順序を考える」ことによって、話の順序を考えるという、楽しい手だてが取り入れられています。

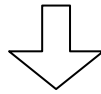
「ニャーゴ」（東京書籍2年上）の学習課題例

*お話の じゅんばんを 考えよう

どんな お話でしたか。絵を 見て、お話の じゅんに ばんごうを つけましょう。

*使うもの・挿絵6枚（六つの場面の挿絵をコピーし、それぞれ1枚ずつのカードにしたもの）

この手だてをさらに工夫し、例えば、教科書の挿絵をコピーして配布し、その「並べ換え」によって話の順序を考えるようにすれば、一層楽しみながら学習することができるでしょう。



挿絵を並べ換えて、話の順序とあらすじを考える

ある先生は、「ニャーゴ」でその手だてを取り入れ、次に示すように、「名前を見て ちょうだい」（東京書籍2年下）にも応用しました。教科書に8枚ある挿絵をコピーして配布し、「並べ換え」によって「お話の順番とあらすじを考える」学習を展開したのです。

「名前を よく見て ちょうだい」（東京書籍2年下）の学習課題例

*お話の 「人ぶつ」について ノートに まとめよう

・えっちゃんは、どんな 「人ぶつ」に、どこで 会ったでしょう。

・それぞれの 「人ぶつ」は、どんな ことを 言ったでしょう。また、どんなようすだったでしょう。

授業の展開例

第1時 ・どんな人物が出てくるか注意しながら、本文を読む。

・えっちゃんが、どんな人物に、どこで出会ったか、確かめる。

第2時 ・本文は伏せ、8枚の挿絵をコピーしたものをを使い、本文を思い出して並べ換える。

・本文（挿絵なし）をプリントにしたものを読み、確かめる。

第3時以降 ・場面ごとに、えっちゃんと人物の様子を詳しく読む。

説明文教材での「並べ換え」は、文章の論理展開の理解に大変有効です

説明的文章の学習課題は、従来より「段落のつながりを考える」「段落や文章の内容を要約する」といったものが代表的です。しかし、児童にとっては、やや退屈なことも少なくないようです。必ずしもすっきりと要約できない段落があったり、子どもの論理では、意味段落にすっきりとは区切れない文章があったりするからです。

そこで、説明的文章の学習にも、「並べ換え」の手だてを取り入れてみてはどうでしょう。知的好奇心をかきたてるはずで、例えば、次の問題を解いてみてください。

「『かむ』ことの手」(光村図書4年上)の問題例

次の4つの文は、「『かむ』ことの手」の最初の段落の文をばらばらにしたものです。意味が通るように、正しくならべかえてみましょう。

ア いっしょに考えてみましょう。

イ 「よくかんで食べなさい。」と、いつも言われていませんか。

ウ また、よくかむと、どんないいことがあるのでしょうか。

エ かむって、どういうことなのでしょう。

答え () () () () 正解 イ エ ウ ア

いかがでしたか。結構、頭を使うはずで、次の例のように、ヒントを示すのも一案です。

問題を解くためのヒントの例

次の括弧にあてはまる文を、先ほどのア～エから選んで、意味が通るようにしましょう。

みなさんは、お家の方から、()

わたしも、子どものころに、よく母に言われたものです。ところで、()

()

これから詳しく説明しますので、() 正解 イ エ ウ ア

次に、「アップとルーズで伝える」(光村図書4年下)での例を紹介します。

本時(3/6時)の学習課題の提示例 ～「アップとルーズで伝える」(光村図書4年下)～

*ねらい

説明の写真の内容と文章の内容を合わせて段落ごとの内容を読み取る。

接続語「しかし・でも」に着目し、アップとルーズの「伝えられること」と「伝えられないこと」をまとめる。

授業展開例

1 学習のねらいを知ろう

今日は、第 段落と第 段落を中心に学習します。黒板に書いてある、学習のねらいを声に出して読んでみましょう。(略)

それぞれの段落には、一枚ずつ写真が載っていますね。サッカーの写真ですね。アップとルーズの写真です。その写真の説明が、第 段落と第 段落に、それぞれ書かれています。

では、読んでみましょう。写真の、どんなことを説明しているのか、一つめのねらいの学習をします。読み終わったら、どんなことが書いてあったか聞いてみますね。

2 耳で聴いて分かるかな

ここで、教科書を閉じてください。プリントを配ります。教科書の写真だけをコピーしたプリントです。これから、第 段落と第 段落をもう一度読みます。みなさんは、プリントの写真を見ながら、聞いていてください。耳で聞いて内容が理解できたかどうか、読み終わったあとに、問題を出します。

3 正しい順序に並べ換えられるかな

では、問題です。これから、みなさんに二つの封筒を配ります。一つの封筒の中には、第 段落の七つの文が小さな短冊になって入っています(短冊を取り出して提示する)。もう一つの封筒には、第 段落の五つの文が入っています。どちらか好きなほうの封筒を選んで開けてください。そして、開けたほうの封筒の中にある短冊の文を、正しい順序に並べ換えてください。

次の学習活動につなぐ説明の例

よくできました。「最初の文」のあとに「これは～(です、しています)」を入れて考えたり、「しかし」「でも」に着目してその前後を考えたりすることで、つながりがはっきりしましたね。

では、その「しかし」、「でも」に着目して、アップとルーズが、それぞれ「伝えられること」と「伝えられないこと」をノートにまとめましょう。

ワンステップアップ

このような「並べ換え」は、「段落のつながりを考える」学習にも効果的です。例えば、「『かむ』ことの力」(光村図書・上)は、全部で九つの段落から構成されており、分量的にも「並べ換え」によって段落のつながりを考えることに適しているといえます。

この教材の場合は、文章の内容が大きく二つに分かれますので、それぞれのまとまりごと(五つと四つ)に学習するとよいでしょう。とりわけ二つめのまとまりには、「まず」「次に」「さらに」「このように」という語が段落のはじめに付いていますので、「段落の並べ換え」に適した教材といえます。